市民と議会

つ　な　が　る

グリーンライブセンター
×
生活環境常任委員会

グリーンライブセンターのみなさんに聞きました



令和7年4月5日にリニューアルオープンしたグリーンライブセンター。現在は、市と多摩市グリーンボランティア連絡会、MichiLab・多摩市緑進会共同企業体とが連携しながら、新たな体制で運営されています。

8月4日(火)午後、グリーンライブセンターを運営されているみなさんと生活環境常任委員会の委員とで懇談し、力を入れていることや課題と感じていることなどについてお聞きしました。

「みどりと環境の拠点」へ生まれ変わったグリーンライブセンター

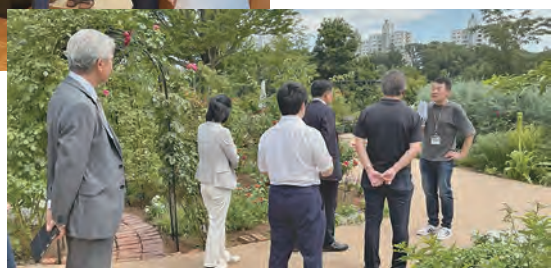
生活環境常任委員会(以下、生活環境)：リニューアルしてどこが一番変わりましたか？

グリーンライブセンター(以下、GLC)：これまでのグリーンライブセンターは、花や緑について学ぶ施設というイメージが強かったのですが、リニューアル後は「多摩市のみどりと環境の拠点」として、ごみ問題や地球温暖化、生物多様性など幅広い環境問題を学び、体験できる施設へと役割が広がりました。

生活環境：施設の役割が広がったことで、利用する人は増えましたか？

GLC：地域の皆さんが交流しながら環境について学ぶ場(GLCラボ)を実施し、高校生がフードロスとサステナブルファッションを考え発表するイベントや、専門家による講座など新しい取組みも始まっています。一方で、多摩中央公園を訪れても施設の存在を知らない方はまだ多いため、多摩センター地域のイベントなどを通じてグリーンライブセンターの魅力を伝えていきたいと考えています。





↑施設の中も案内していただきました。

子どもから大人まで多世代が集う交流の場へ

生活環境：いろんな学習や体験の場を提供されてきましたが、注目度が高かったものはありますか？

GLC：生物分類技能検定の取得をめざす大学生スタッフの提案をきっかけに、「生物分類勉強会」を全10回実施しました。参加者を募集したところ20人以上が集まり、最後まで多くの方達が継続して参加し、世代を超えた学びの場となりました。

生活環境：交流拠点としての今後の展望を伺います。

GLC：団体間や人のつながりができるような取組みには、特に力を入れています。例えば、GLCラボをきっかけに食材をみんなで持ち寄って、一緒にカレーを作って食べるというフードロス削減アクションを通じて、横のつながりを広げる取組みを行いました。



未来につなぐボランティア活動の広がり

グリーンボランティア連絡会より、これからのボランティア活動についてのお話もいただきました。

グリーンボランティア連絡会：これまで25年以上にわたり多くの市民ボランティアが活動を支えてきました。しかし、現在は高齢化が進み、若い世代の参加が少ないことが大きな課題です。環境活動を将来につないでいくためにも、新たに興味を持って参加してくださる方を増やしていくことが重要だと感じています。

※目の不自由な方へ、たま市議会だよりを音訳したCD「声のたま市議会だより(デイジー版)」を発行しています　(一部のパソコンでも再生可)。申し込みは多摩市議会事務局　☎042－338－6890へ